

男性にとっての男女共同参画



男女共同参画というと、女性の地位向上など、女性のための施策を行っているという方が思われていて、男性にとっての意義やメリットがまだまだ認識されていないといわれています。男女共同参画は、女性のためだけに進められるものではないということを理解することが大切です。

ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

女性の登用を進めるため、企業において休業制度や短時間就業、残業縮減などの環境条件を整備していく必要がありますが、その恩恵を受けるのは何も女性だけではありません。男性も、子育てに参加したいと考えたり、介護を行う必要が生じた場合、休業制度など

が活用できることは大きなメリットとなります。また、家族とのかかわりや、地域活動・ボランティア等の時間が増えることは、豊かな人生を送る上で極めて重要であるといえるのではないのでしょうか。

長い老後

寿命が延び、子どもも手を離れ、夫婦だけで暮らす時間が長くなりました。日ごろからパートナーとのコミュニケーションをしっかりととることは、今まで以上に重要なことです。具体的には、家事への参加や共通の趣味などを通じてお互いの交流を図る必要があり

ます。特に男性は、これまで「仕事人間」として家庭に十分関与してこなかったことについて、自分はやむを得ないと考えていても、それは独りよがり、必ずしもパートナーの理解を得られていない場合があることを認識すべきなのかもしれません。

編集後記 2年間にわたってハぁモニ編集委員をさせていただきました。取材で出会った方々、新鮮で興味深いお話など、楽しく貴重な体験でした。今回は、講演会の内容が（情報が…）うまく伝わりましたでしょうか？？パートナーとのくつろぎのひとつにページをめくっていただければ幸いです。

ハぁモニ編集委員一同



「あつぎパートナーセンター」は、男性のグループも御利用できます。

「あつぎパートナーセンター」は、男女のあらゆる分野への参加を促進し、男女共同参画社会の実現を目標とした施設です。

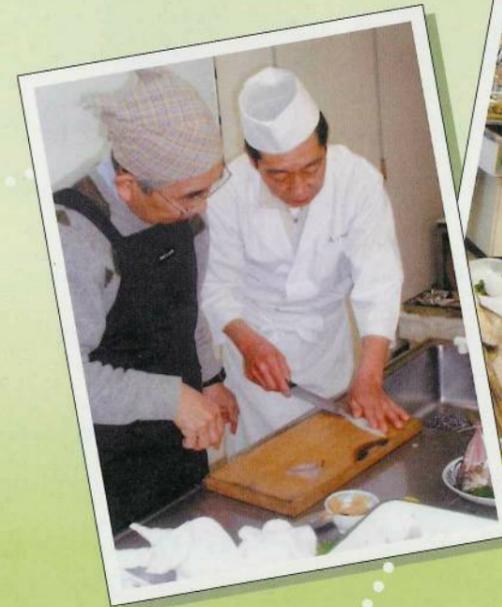
平成18年3月発行
編集 ハぁモニ編集委員
発行 厚木市市民協働部男女共同参画課
厚木市中町1-4-3
あつぎパートナーセンター内
電話 (046)225-2500(直通)
FAX (046)223-8432
e-mail 1150@city.atsugi.kanagawa.jp

あつぎパートナーセンターだより「ハぁモニ」は、再生紙を利用しています。

ハぁモニ



わたしたちがめざす男女共同参画社会とは、「すべての人が尊重され、多様な生き方を選択することが可能で、家庭、地域、職場などにおいて個人の能力を十分に発揮することができる社会」です。



「男子厨房に入るべからず」とは、もはや過去の言葉ではないでしょうか。以前は、家庭での料理は女性が作って、男性が食べるという役割が当たり前のように浸透していました。最近では料理の技術を身に付けたり、作ることを楽しみたいという男性が増えてきています。

あつぎパートナーセンターでは、男女が一緒になって料理を楽しんでもらうための「夫婦でつくる料理教室」や、魚のさばき方と酒の肴の作り方を覚えてもらうための「男の料理教室」を開催しました。

二つの講座とも、男性参加者のほとんどは料理をしたことのない人ばかりで、夫婦でつくる料理教室では

講師やパートナーからしっかり手ほどきを受けながら料理に取り組み、また、男の料理教室では「これから男だって料理ぐらいできなければいけない」「妻に自分が作った料理を食べさせたい」と話す人がいる一方で、「家では料理は絶対しない」「女性と一緒に料理することは恥ずかしい。男だから参加した。」という意見もありました。

これから「団塊の世代」といわれる方々が定年を迎え、男性が料理をする機会も増えるかもしれません。人が生きていくためには食べることは不可欠です。健康的な食にこだわりながら、パートナーと一緒に楽しく料理を始めてみてはどうでしょうか？

どう輝いて生きるか ～情報の正しい選び方



▼講演内容より

平成18年2月25日(土)厚木市文化会館小ホールで、講師にテレビ等でおなじみの辛坊治郎氏をお迎えして、生涯学習プロジェクト「男女共同参画推進セミナー」を開催しました。

今回の講演会では、自身がマスメディアで活躍されていることから、経験に基づく情報の選び方や、判断の難しさ等、今日私たちが抱えている事柄について分かりやすく、時折ユーモアも交えてお話されました。

情報とは、発信することよりも受け取る方が難しく、受け取った情報が正しいか否かは自分自信で判断しなければならない。判断力が優れていれば正しい判断ができるかというそうでもない。人間は思い込みの激しいところがあり、過去の情報や、知識で判断する場合がある。そして、間違った判断の結果は自分自身で責任を取らなければならない。また、情報を発信する時は、相手に分かる言葉を選んで伝えることが大切であり、真剣に発している事柄が相手に伝わっているか見極めることが必要となる……など、これまであまり真剣に考えてこなかった「情報を発信し、受け取る。」という行為に対する認識を新たにする内容でした。

1995年1月17日の阪神・淡路大震災のときの様子にもふれられ、大震災のときには情報を全く伝えることができなくなる場合があるので、流言飛語(根拠の無いデマ)に惑わされないことが大切です。また、極限の状況下ではその場のリーダーの人柄で、人は優しくなれる。そして、全ての人間関係は人と人の情報のやり取りであり、お互いが支えあって人として生きていくことができる、との内容には、大変共感がもてました。

最後に、情報の向こう側にあることを一つ一つ精査して、正しい判断をしてほしい…と結んでいらっしゃいました。

近年、メディアが発達し、インターネットや携帯電話なども著しく普及し、日々溢れるほどの情報が流されています。「花は花にきく」の例えのごとく情報の原点を見極めることが大切だとあらためて認識しました。また、人は一人では人として生きてはいけない、お互いが支えあうことが一番大切、との言葉に人柄が伝わってきました。



講師プロフィール

1956年4月11日生まれ。大阪府岸和田市出身
1980年、早稲田大学法学部卒業
同年、読売テレビ放送株式会社入社。数々の報道・情報番組のリポーター、キャスターを歴任
2000年、報道局情報番組部長
2001年から、関西学院大学、立命館大学、早稲田大学などで非常勤講師として教壇に立つ。
2004年、芦屋大学客員教授就任
現在、日本テレビ「ズームイン! SUPER」でニュース解説・コラムなどを担当。
また、日本テレビ全国ネット「ウェークアップ! ぶらす」の司会をつとめる。

あつぎパートナーセンター託児サービスのお知らせ

あつぎパートナーセンターの貸館利用者を対象に、託児サービスを行っています。

- 託児対象** 1歳以上の未就学児 ※平成18年4月からは1歳以上小学校3年生以下
- 利用日** 月～金曜日(ただし、休日及び休館日を除く。)
- 託児時間** 午前8時45分から午後5時15分までの間で、保護者が貸館を直接利用している時間
- 託児定員** 18人
- 申込み** 施設本予約後、利用希望日の2週間前までに、団体ごとに「託児サービス申込書(兼)決定通知書」を提出してください。先着順で定員まで受け付けます。

※「託児サービス申込書(兼)決定通知書」の提出が期限まででない場合は、託児サービスの御利用はできません。
※「託児サービス申込書(兼)決定通知書」提出後、利用者に変更がある場合は、必ず男女共同参画課まで御連絡ください。連絡がない場合には、託児サービスをお断りする場合があります。

詳細については、あつぎパートナーセンター(☎046-225-2500)まで御連絡ください。

人生とは…瞬間、瞬間の判断の連続ではないだろうか、もし違う判断をしていたら、今この場所にいなかった…